

## 財政収支(2017年1-6月)

(1) 2017年1-6月における歳入は前年同期比8.8%増。法人税や付加価値税の伸びが大きく、税収は13.6%の増加となった。

(2) 歳出面では、経常移転が前年同期比29.2%増加するなど、歳出全体では18.5%の増加となった。

(3) 財政収支は252億リラの赤字となり前年同期から大幅のマイナス。プライマリーバランスは93.6%減少し、18億リラの黒字。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	275,001	299,200	8.8%
税収	216,553	246,071	13.6%
所得税	46,179	50,318	9.0%
法人税	20,544	27,043	31.6%
付加価値税(国内及び輸入)	61,128	70,276	15.0%
特別消費税	54,616	60,954	11.6%
その他税収	34,086	37,480	10.0%
税外収入等	58,448	53,129	▲9.1%
歳出(b)	273,852	324,435	18.5%
人件費	76,905	81,824	6.4%
物品及びサービスの購入	22,358	26,411	18.1%
経常移転	111,284	143,775	29.2%
資本支出	15,725	20,996	33.5%
支払利子(c)	26,390	26,990	2.3%
その他歳出	21,190	24,439	15.3%
財政収支(a-b)	1,149	▲25,235	▲2296.3%
基礎的財政収支(a-(b-c))	27,539	1,755	▲93.6%

## 経常収支(2017年1-5月)

(1) 2017年1-5月の経常収支は、前年同期比19.7%減少し、168億ドルの赤字。

(2) 貿易収支は前年同期比16.8%の減少、サービス収支は、同17.8%の増加。うち旅行収支は同13.1%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

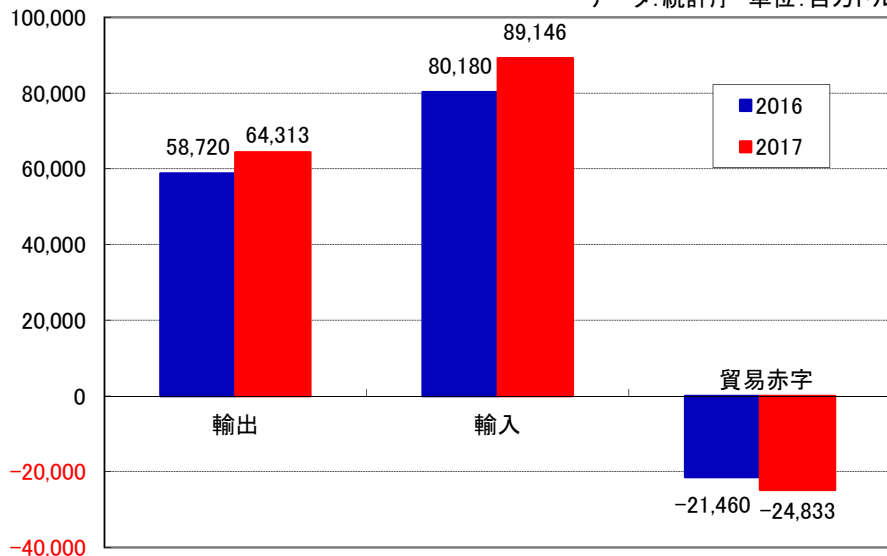
内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲14,073	▲16,849	▲19.7%
貿易収支(物品)	▲15,069	▲17,608	▲16.8%
サービス収支	3,711	4,372	17.8%
旅行収支	3,638	4,114	13.1%
その他サービス収支	73	258	253.4%
第1次所得収支	▲3,530	▲4,329	▲22.6%
第2次所得収支	815	716	▲12.1%
労働者送金	208	180	▲13.5%
その他第2次所得収支	607	536	▲11.7%
資本移転等収支	15	▲7	▲146.7%
金融収支	▲10,958	▲21,508	▲96.3%
直接投資	▲3,019	▲3,312	▲9.7%
証券投資	▲7,395	▲13,204	▲78.6%
その他投資	▲5,325	376	107.1%
外貨準備	4,781	▲5,368	▲212.3%
誤差脱漏	3,100	▲4,652	▲250.1%

## 貿易収支(2017年1-5月)

(1) 2017年1-5月の輸出額は643億ドル(前年比9.5%増)、輸入額は891億ドル(同11.2%増)となり、この結果貿易収支は248億ドルの赤字(同15.7%減)となった。

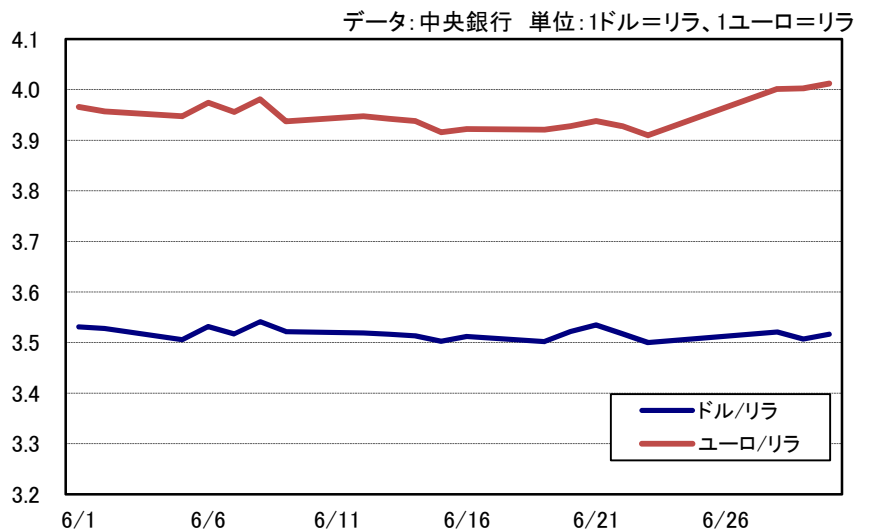
(2) 2017年1-5月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は45.8%(前年48.1%)、輸入額におけるEU向け輸入の占める割合は35.9%(同39.2%)となっている。

データ:統計庁 単位:百万ドル



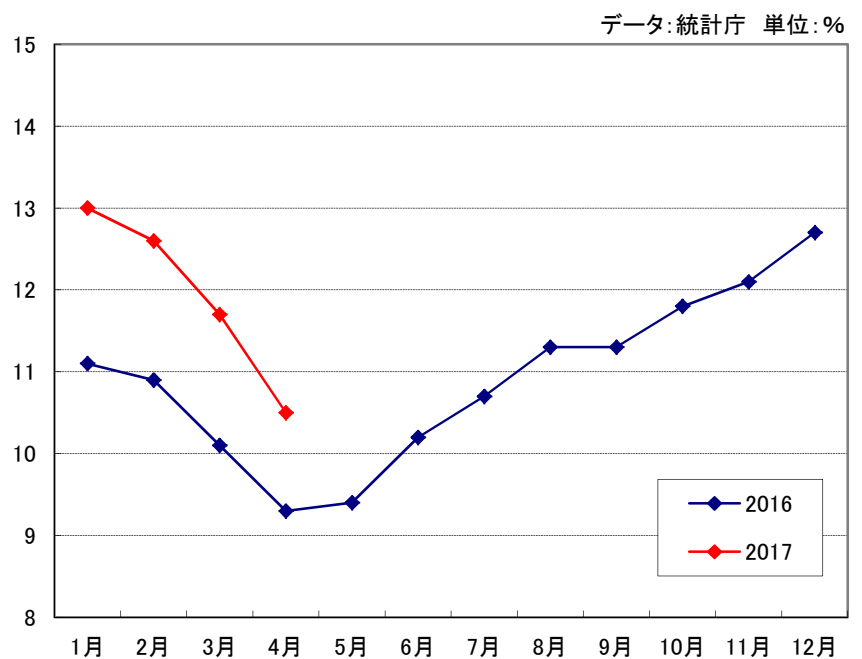
## 為替(6月)

(1)6月のドル・リラ相場は、月を通して比較的安定的な動き。最終的には、1ドル=3.52リラとなった。  
(2)ユーロ・リラ相場は月初から安定的に推移したが、下旬以降リラ安が進み、1ユーロ=4.01リラで越月した。



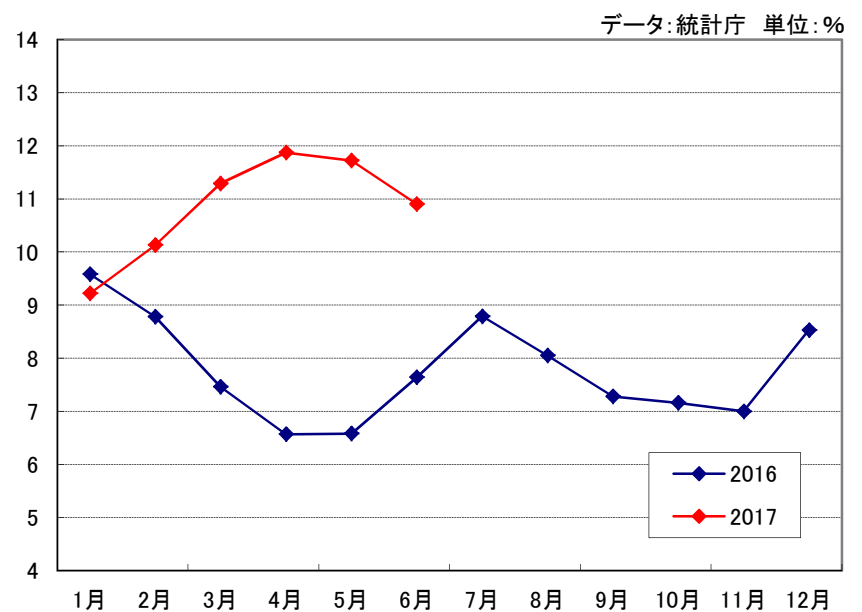
## 失業率(4月)

(1)2017年4月期の失業率は、10.5%。前年同期からは1.2ポイントの上昇、前月からは1.2ポイントの下落。  
(2)労働力人口は3,144万人、就労者数は2,816万人、失業者数は329万人。  
(3)男性の失業率は9.1%、女性は13.2%。若年層(15-24歳)の失業率は19.8%となっている。



## 物価上昇率(6月)

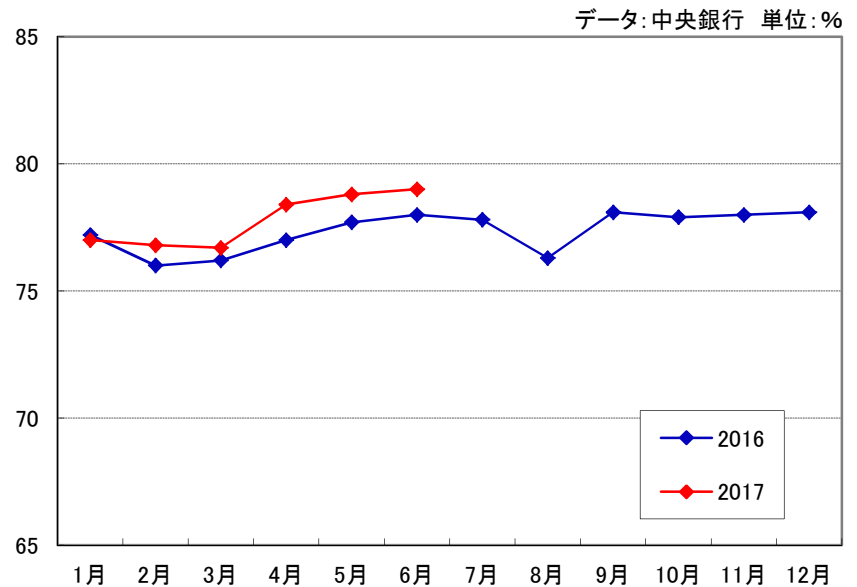
(1)2017年6月の消費者物価は前月から0.27%の下落。年間では10.90%の上昇。  
(2)分野別に見ると、前月と比べて最も上昇したのは教育で1.05%。年間で最も上昇したのもアルコール飲料・タバコで21.70%。  
(3)本年末の中銀見通しは8.7%。  
(4)国内生産者物価指数は前月から0.07%上昇し、年間で14.87%の上昇となった。



## 設備稼働率(6月)

(1) 2017年6月の設備稼働率は79.0%となり、前月から0.2ポイントの上昇。前年同月からは1.0ポイントの上昇となった。

(2) 製造業の分野別では、自動車、トレーラー及びセミトレーラー(87.1%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(59.9%)が最も低い稼働率であった。

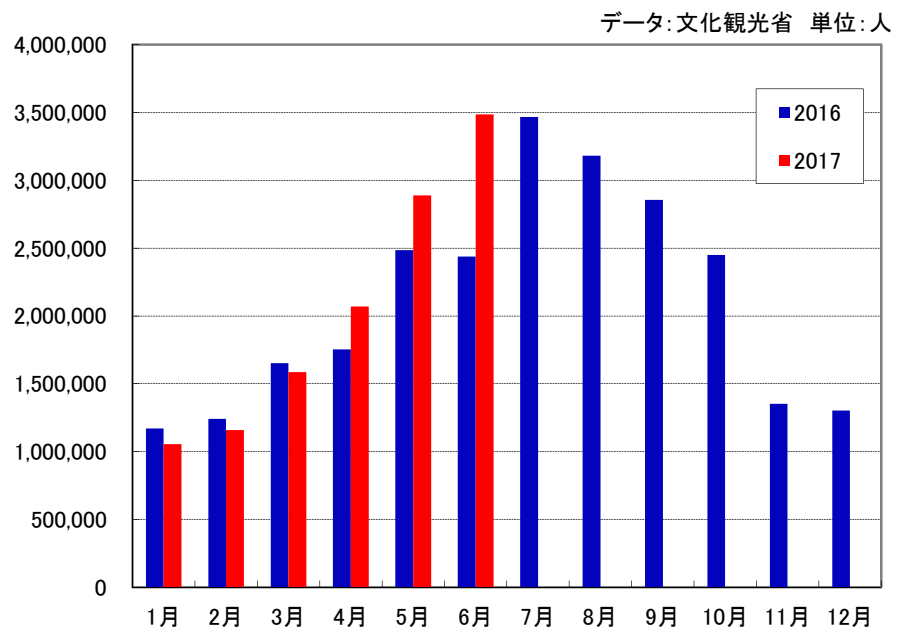


## 旅行者数(6月)

(1) 2017年6月にトルコを訪れた旅行者は349万人であり、前年同月比43.0%増となった。

(2) 旅行者数を国別に見るとロシアからの旅行者数が最も多く76.4万人で全体の21.9%を占める。以下、ドイツ(38.3万人)、イラン(23.2万人)となっている。

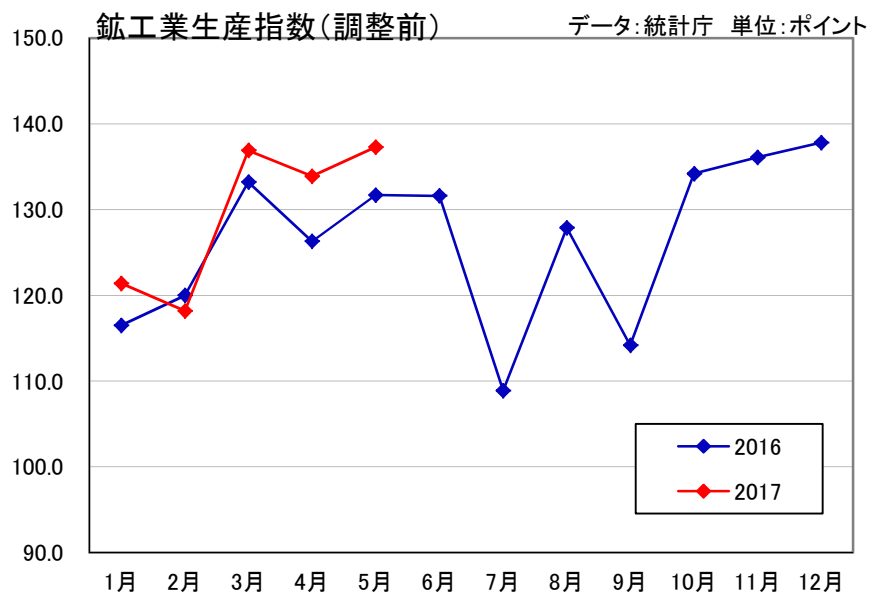
(3) なお、日本からの旅行者は4,089人(前年同月比3.0%減)となった。



## 鉱工業生産指数(5月)

(1) 2017年5月期の鉱工業生産指数(調整前)は137.3ポイント(2010年=100)となり、日数調整後の前年同月比は3.5%の上昇、季節及び日数調整後の前月比は1.5%の下落。

(2) 分野別では、非耐久財が前月比2.1%増、資本財が同9.4%減となっている。



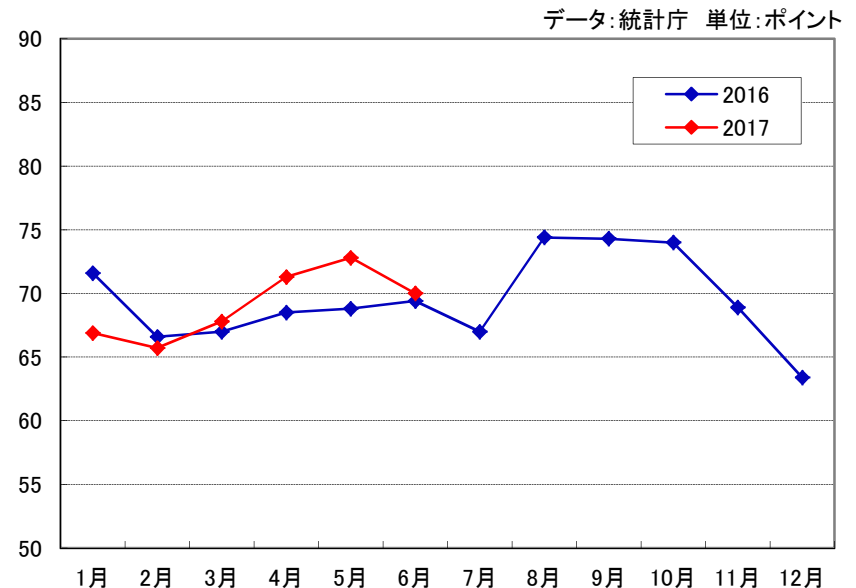
## 外貨準備高(6月)

(1)2017年6月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,087億ドルとなった。  
 (2)外貨準備高は、近年順調に増加していたが、2012年の水準まで落ち込んでいる。



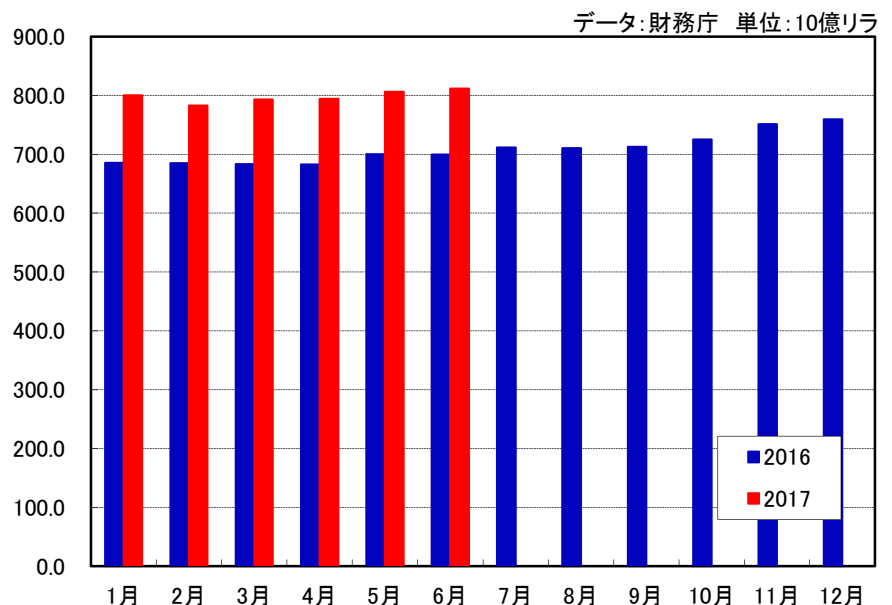
## 消費者信頼感指数(6月)

(1)2017年6月期の消費者信頼感指数は前月の72.8ポイントから3.8%下落し、70.0ポイントとなった。  
 (2)内訳では、失業者数の見通しが6.1%下落し70.7ポイント、貯蓄可能性が5.5%下落し22.1ポイントとなった。



## 中央政府債務残高(6月)

(1)2017年6月時点での中央政府債務残高は8,118億リラとなり、前年同期比16.0%増加した。なお、前月比では0.7%の増加となった。  
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に61.0%となっている。  
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.5%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。